

9月8日 令和6年度平和派遣事業報告会 被爆アオギリ二世の植樹 市長挨拶文

皆様、こんにちは。市長の大坪冬彦でございます。

本日は、令和6年度平和派遣事業報告会および被爆アオギリ二世の植樹にご参加いただき誠にありがとうございます。

さて、平和派遣事業には、今年も多くの子どもたちにご参加いただき、保護者の皆様には心より感謝申し上げます。

平和派遣事業を始めた11年前、わたくしは、次世代を担う子どもたちには、戦争の実相に触れてもらいたい、現地に行かなくては感じ取ることができない本物の体験をしてもらいたいと考えました。

毎年の報告会では、子どもたち一人ひとりの瑞々しい感性による体験談が発表され、私も多くを学ばせていただいています。本日報告する児童生徒の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

日野市は、昭和57年に「核兵器廃絶・平和都市宣言」を制定しました。「核兵器が世界から無くなる日まで、私たちは叫び続ける」と力強く表現された、大変誇らしい内容であります。

令和4年に宣言制定後40周年の節目を迎えたことを機に、宣言をどのように未来へ受け継いでいくか、市民の皆様と、約2年にわたり意見交換を重ねてまいりました。

そして今年の春に、平和宣言を日野市の「宝」として大切に受け継いでいくことと、子どもから大人まで参加しやすい平和事業を行っていくことを、決めました。

本日举行被爆アオギリ二世の植樹は、平和宣言40周年の節目に、今を生きる私たち日野市民が、平和宣言について語り合い、未来に向けて受け継いでいくことを決めた、その証として行いたいと考えております。

市民の皆様には被爆アオギリについて、既にご存知の方もいらっしゃると思います。

詳しくは、後ほど明星大学の皆様からお話がありますが、広島には、79年前に原子爆弾が投下された時に放射線を浴び、傷ついた樹木159本が、被爆樹木として、今も生き続けています。

その姿は、被爆した側面の生長が止まり、まるで爆心地の方向を指し示すように木の幹をゆがませ、静かに立っています。その存在自体が、原爆の恐ろしさや、時間が経っても癒えることのない被爆者の痛み、苦しみ、悲しみを表しています。

いまや被爆者の平均年齢は85歳を超え、被爆の語り部は、いなくなる日が近づいています。

しかし被爆樹木を守り続けることで、いつまでも私たちに原爆の恐ろしさを語りかけてくれるのではないのでしょうか。

そして広島市の平和首長会議は、広島平和記念公園にある被爆アオギリから種を取り、二世として、国内外の希望する自治体へ苗木を配布しています。(世界21か国113自治体、国内136自治体)

本日、苗木を日野市に迎え入れるにあたり、わたくしは、親のアオギリは大きく傷ついてしまったけれども、二世の小さな苗木は、核兵器や戦争にさらされること無く、いつまでも平和の中で生長して欲しい。その気持ちを新たにしました。

市民の皆様におかれましては、被爆アオギリ二世の苗木を身近に見ることで、広島の親木に思いを馳せ、核兵器廃絶と世界恒久平和の願いをかけていただきたく存じます。

結びでございますが、世界では今なお戦禍が絶えず、核の脅威は増すばかりであります。

広島、長崎の原爆、沖縄の壮絶な地上戦の記憶を忘れてはならず、二度と繰り返してはなりません。未来に向けて、この日野市から、平和の願いを発信してまいりましょう。

本日は誠に、ありがとうございます。

以上